



②-1 ドライバーモニタリングシステム (DMS) Driver Monitoring System

概要

- 柔軟で電気を通す特殊なゴム材料で作った SR (スマートラバー) センサをシート (または後付けクッション) に内蔵
- SR センサにて計測した圧力変化から 心拍/呼吸/重心移動を検知
- 計測結果より乗員状態 (疲労/居眠り/急病予兆) を推定し 運転者へ警告、運転支援システムの作動、外部への通報などのサービスへ繋げる
- PR動画 <https://youtu.be/0yp88XALUp4>
プレスリリース <https://www.sumitomoriko.co.jp/wordpress/wp-content/uploads/2021/03/n51910569.pdf>

製品



Back

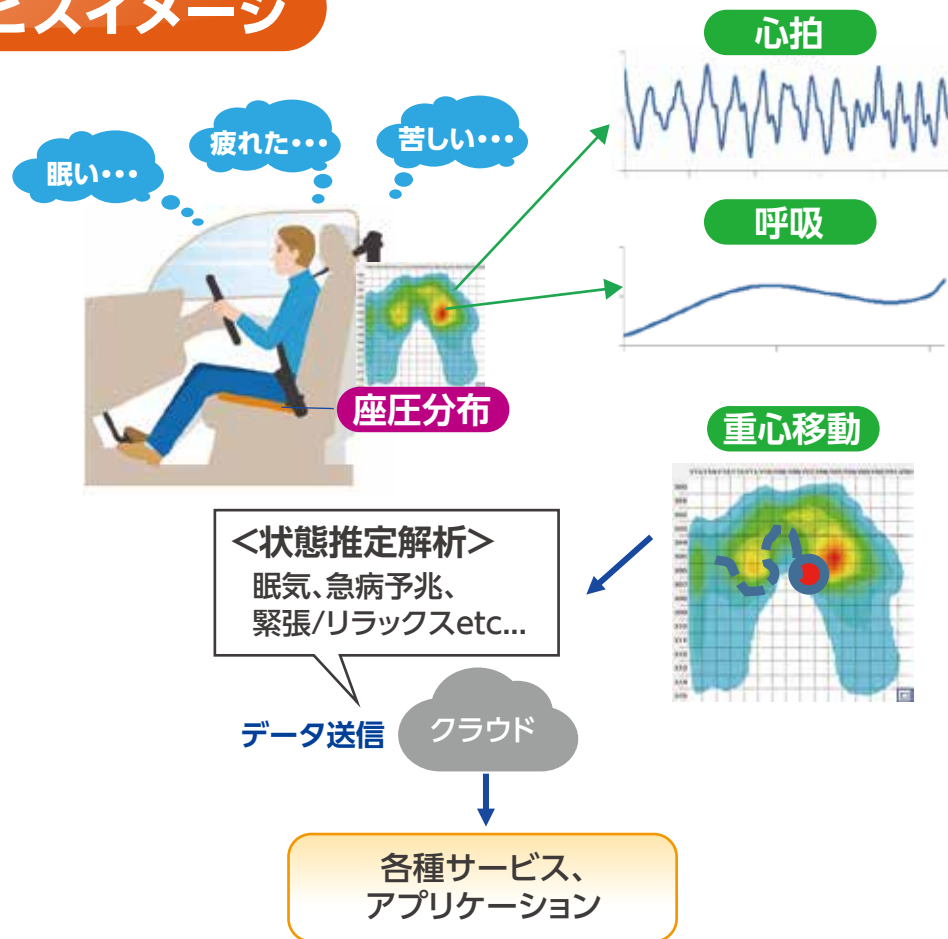
Next



②-2 ドライバーモニタリングシステム (DMS) Driver Monitoring System



サービスイメージ



想定される用途

- トラック、バスの後付けのドライバーモニタリング（居眠り、疲労等）装置として
- その他各種モビリティでのパッセンジャーモニタリングシステムとして
- 先進安全自動車（ASV）ドライバー異常検知センサとして
- 欧州連合（EU）の道路安全規則「一般安全規則（GSR）」のDriver Drowsiness and Attention Warningの居眠り検知システムとして

Back

Next



②-3 ドライバーモニタリングシステム (DMS) Driver Monitoring System

今後の展開

- 日本最大級の公的機関である国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)と共同で「住友理工-産総研 先進高分子デバイス連携室」を設立した。
(’20/10)
- 産総研との共同研究を通して、「座圧から、生体の情報や状態をどこまで推定可能か」を検討する。
- 様々な世の中のニーズにこたえていけるようにセンシング技術をより一層磨いていく。



PRESS
RELEASE

2020年10月1日

「住友理工-産総研 先進高分子デバイス連携研究室」を設立
～安全・安心・快適を目的とした先進高分子デバイスに関する研究を推進～

住友理工株式会社(本社:名古屋市中村区、代表取締役 執行役員社長:清水和志)と国立研究開発法人 産業技術総合研究所(つくば本部:茨城県つくば市、理事長:石村和彦、以下「産総研」)は共同で10月1日、産総研のつくばセンター内に「住友理工-産総研 先進高分子デバイス連携研究室」を設立しましたので、お知らせいたします。



Back

Next